

第 29 期（令和 5 年度）事業報告
（令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで）

全体報告

池田記念美術館は令和 5 年度、開館 25 年目、公益財団法人としても 10 年目を迎えました。5 月 17 日の第 29 期第 1 回理事会は 4 年ぶりに美術館を会場に対面で開催し、理事・監事の親睦を図ることができました。同じく美術館で開催された 6 月 23 日の定時評議員会では、奥島孝康理事の退任の報告と宮内孝知氏の新理事就任が承認されました。また、本年 2 月 22 日の第 3 回理事会は東京での開催となり、第 30 期（令和 6 年度）事業計画及び収支計画などにつき承認されました。

南魚沼市との間で取り交わした期間 10 年の管理運営に関する協定は本年 3 月 31 日をもって終了となりましたが、同じく期間 10 年（2024 年～2033 年度）の新たな協定書を締結することができました。

開館以来四半世紀となり、館内の各種設備も経年劣化や故障箇所が目につくようになり、南魚沼市の費用負担によって毎年大規模修繕を実施していますが、今年度は 1 階展示室を中心に LED 交換工事を執り行いました。この工事は令和 6 年度も継続し、3 年計画で全館の LED 化を終了する予定になっています。

新型コロナウイルス感染症への継続的な対策として、

- ・ 玄関入口、トイレ前、エレベーター乗降口、エントランスホールなど館内各所に手指消毒用アルコールを設置。
- ・ 閉館後、取っ手や手すり、テーブル、椅子、トイレ内、事務室などをアルコール消毒。
- ・ 来館者との接触が多い受付、喫茶カウンターに飛沫防止シールドを設置。

原油価格の高騰によって大幅に増加した光熱費（電気代・灯油代）対策として、令和 4 年度から開館時間を変更し、冬期間（1 月 1 日～3 月 31 日）の開館を 9 時 30 分～17 時としましたが、令和 5 年度も引き続き継続しました（他の期間は従来通り 9 時～17 時）。

【展覧会について】

全国区で通用する展覧会として、㊦日本を代表する版画家団体である日本版画協会の「日本版画協会《八色の森》巡回展」と、㊧現代美術の作家 34 人の作品と地元の子どもの作品を共同展示する展覧会として各方面から高い評価を得ている「八色の森の美術展+子ども絵画展」を継続開催しました（7 回目）。

地域の文化活動の促進に寄与するための企画として、㊦地元の絵画団体「白象会」の創立 70

周年記念展、①浦佐普光寺の楼門天井画修復を祝して「浦佐毘沙門堂楼門天井画修復記念 板谷桂舟天井画展」をそれぞれ開催し、多くの来館者がありました。また、⑦「八海山夢展」「八海山ジュニア展」「南魚沼郡市児童生徒美術展」「魚沼ベストショット展」を継続開催することで地域との連携を深めることができました。

【アウトリーチ事業】

地域や学校と連携・支援する美術館の活動として、

①夏休み期間の7月22日（土）～8月20日（日）、八海山麓スキー場で開催されたイベント「第3回八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー」に協賛・参加。グルグルハウス高柳から借用した風ぐるま約3,000本を、地元の子どもたちから高校生や大人まで、約80人の手助けでゲレンデに設置しました。同じく地元住民の協力で草むらに巨大迷路をつくり、柏崎市在住の作家・高橋藤水氏のインスタレーション、地元のこども園や保育園、ワークショップで参加者が制作したユニークなおバケを展示しました。サマーイベントの目玉として大好評でした。

②「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として7～8月に東京から作家を招いて学童クラブと小学校で出前授業を実施し、造形遊びのワークショップを楽しみました。講師は東京在住の版画家・佐藤未来さん。子どもたちの作品は会期中、館内に展示しました。

7月31日（月） 大空クラブ（浦佐小学校区学童保育）

8月1日（火） 大空クラブ（浦佐小学校区学童保育）

8月31日（木） 後山小学校

③八海山麓スキー場の感謝祭イベント「八海山麓スキー場ホワイトカーニバル」において、杉原厚吉先生が設計した「雪の錯覚すべり台」を製作、披露する事業として2017、2018、2019、2021年、2023年に続き、6回目の実施予定でしたが、今冬の少雪による雪不足のため残念ながら中止となりました。予定していた作品は来年3月に公開します。

【高校生の探究活動支援】

高校生の探究活動を支援する事業を夏から開始しました。座学や野外活動などを実施し、今秋開催の「高校生がキュレーションする美術展」に向けて動き出しました。

7月8日（土）おバケづくりワークショップ

7月22日（土）スキー場ゲレンデに風ぐるまとおバケ迷路を設営

8月22日（火）キックオフミーティング（美術館周辺にインスタレーション制作）

9月16日（土）鑑賞型哲学対話と「想像の訪問者のための鑑賞ルートづくり」

10月6日（金）八色の森公園内に風ぐるまを設営

10月27日（金）座学「見えてくるもの—イエスの像をめぐって」

11月11日（土）座学「解説—イエスの像について」、路上探検「トマソンを探そう」

11月15日（水）プレゼン発表会「私が見つけたトマソン」

12月23日（土）ワークショップ「ピカソを超えよう」

1月18日（木）ワークショップ「ピカソを超えよう出前授業（小千谷西高校）」

【哲学対話教室】

立教大学・河野哲也教授の指導と上越教育大学の松本健義研究室の協力のもと、立教大学哲学・倫理学研究室スタッフがファシリテーターとして参加。平成30年（2018年）から毎年実施しているワークショップです。今年度も園児、小学生、中学生、高校生、大学生、保護者、教育関係者など多数が参加し、鑑賞型哲学対話を実践・体験しました。また、今年度は初めて地域づくりに関する哲学対話の場を設けて、哲学対話の裾野を広げることができました。

10月16日（日）～17日（月）

11月14日（月）

11月21日（月）

【ベースボール・マガジン社新潟支社との連携】

ベースボール・マガジン社新潟支社が中心となって運営する総合型地域スポーツクラブ「スポーツ&ライフ南魚沼」と連携して、地元在住の書家、スポーツインストラクターを講師に各種講座を開講しました。

〈実施した講座〉

- ・美文字講座
- ・エアロヨガ教室

【援助事業】

公募によって募集した「環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業」については応募がなく、実施できませんでした。

【各種補助金・支援金、助成金】

文化庁からコロナ対策費、新潟県から県民文化活動推進事業として「第7回八色の森の美術展」に対して、内田エネルギー科学振興財団から「八海山麓スキー場での夏と冬のイベント」に対して、それぞれ補助金と助成金がありました。

国庫補助金（文化庁）	文化芸術振興費	コロナ対策消耗品購入に対して	140,000円
地方公共団体補助金	新潟県	第7回八色の森の美術展に対して	840,000円
民間助成金	内田エネルギー科学振興財団	地域活性化活動・再生活動事業費として	174,093円

【年間パスポート】

平成28年度から発行している年間パスポート（3,000円）の会員数は66人、平成30年度から新たに開始した法人パスポート（10,000円）の会員数は10件です。同じく、喫茶収入を増やすために、平成30年度から始めたドリンクチケット（5杯つづり1,000円）は年間142枚の需要がありました。

【新潟日報社との連携】〈施設提供〉

新潟日報社が運営するカルチャースクールの会場として毎月2回、休館日（水曜日）に施設を提供。仏像彫刻、ハーモニカ、太極拳の教室を開催しています。

【入館者数】

以下は、公益財団法人移行後の入館者数、有料入館者数です。

	入館者数（人）	有料入館者数（人）
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	10,101
23期（H29年度）	16,186	6,905
24期（H30年度）	16,193	5,681
25期（H31年度）	16,309	5,207
26期（R 2年度）	10,452	3,902
27期（R 3年度）	13,307	4,965
28期（R 4年度）	12,752	5,451
29期（R 5年度）	13,371	4,696

以下は、29期（R 5年度）の月別入館者数です。

月（R 5年度）	入館者数（人）	前年度（R 4年）
4月	1,423	883
5月	1,846	1,295
6月	719	712
7月	1,130	1,176
8月	1,450	1,587
9月	855	736
10月	1,021	843
11月	642	818
12月	190	403
1月	2,770	2,428
2月	917	780
3月	408	1,091
合計	13,371	12,752

入館者数は前年度比105%でしたが、有料入館者数は86%と減少しました。これは、コロナ禍で外出を控えていた地元の園児や児童の来館数が増えたことと（無料）、この夏の酷暑で大

人の客足（有料）が鈍ったためと思われます。また、12月はLED交換工事のため開館日数が9日間、3月はLED交換工事の予備の月としたため企画展を予定しなかったため、両月とも入館者数が減少しています。

【事業収益の内容】

以下は、公益財団法人移行後の事業収益の内容です。

	入館料 収入	企画事業 収入	カードショ ー収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	施設 使用料	合計（円）
20期	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938			15,857,689
21期	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161			15,270,527
22期	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829			12,206,440
23期	3,789,970	1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996		8,866,627
24期	3,812,030	819,690	1,229,000	1,323,570	996,766	60,000		8,241,056
25期	3,722,840	4,383,974	1,121,400	2,982,806	758,410	6,000		12,975,430
26期	2,392,850	3,155,953	0	1,439,454	460,938	40,000		7,489,195
27期	2,828,600	3,125,372	1,342,050	1,264,918	556,494	38,000		9,155,434
28期	3,153,550	3,594,090	1,539,100	2,734,715	584,759	15,064		11,621,278
29期	2,460,580	3,614,973	0	900,511	515,460	2,364	518,900	8,012,788

これまで施設使用に関する収入（新潟日報カルチャースクール、雪見展など）を「入館料収入」として計上してきましたが、第29期より「施設使用料」の項目を新設して、より厳密化しました。施設使用料を含めた入館料収入は前年比94.5%。LED交換工事によって例年に比べて企画展の回数が減ったことと、開館日数の減少、夏場の猛暑による影響が大きかったと考えられます。予定していたスポーツカードショーが急遽中止となったこともあり、当初予定していた事業収益（9,571,000円）を達成することはできませんでした。

※ 第20期（平成26年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加。グッズや小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第21期（平成27年度）は絵画1点の委託販売料（224万円）と、新潟大学・南魚沼市との共同企画（魚沼—記録と記憶の再生プロジェクト—）が文化庁の助成を得たため（333万円）企画事業収入が増加しています。

第22期（平成28年度）は「錯覚展」がマスコミ各社に大きく取り上げられた結果、冬期間の来館者数・入館料が大幅に増加しました。小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第23期（平成29年度）は前期と比較して、1月～2月の豪雪・悪天候も影響したため、冬期間の入館者数と入館料が減少しました。

第24期はイベント時のスポーツウェア販売が落ち込んだため企画事業収入が減少しました。

第 25 期の企画事業収入が前年に比べて増加しているのは、「八色の森の美術展」記録集制作にあたっての協賛金・広告費収入、「ふれる かんじる 楽しい美術展」開催にあたっての新潟県からの援助などによるものです。また、売店収入の増加は小作品と画集の委託販売収入増によるものです。

第 26 期はコロナ禍でカードショーが中止になったため収入がありませんでした。

第 27 期はカードショーを年間 3 回開催したことによりカードショー収入が例年通りの数字となりました。

第 28 期の売店収入の増加は絵画作品の売上げによるものです。

なお、23 期以降の委託販売手数料は「ベーマガ米」の販売手数料です。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業などにつき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

公募により、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流事業に対して援助（1 件 10 万円、2 件以内）となっていますが、応募はありませんでした。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

偶数年に募集する隔年事業のため、今年度は募集しませんでした。

3、美術館事業

1) 展覧会

「スポーツ文化展示室」「小泉八雲文学資料室」での常設展示のほか、以下の企画展を開催しました。

① 白象会創立 70 周年記念 白象展

■会期：3 月 11 日（土）～ 4 月 16 日（日）

（開館日数 32 日、入館者数 1,513 人）

魚沼市の絵画団体・白象会の創立 70 周年記念会員展。会員の代表作や最新作など計 63 点を展示。その他、初代会長の渡辺泰亮氏の作品も展示し、白象会の歴史と現在の活動を紹介しました。地元のファンを中心に大勢の来館者があり好評でした。

② 冬季特別展示 第6回 錯覚展2023

■会期：1 月 21 日（土）～ 4 月 16 日（日）

（開館日数 70 日、入館者数 2,758 人）

錯視研究の第一人者、杉原厚吉先生が制作した「実際とは違うように見えてしまう」作品を展示。新作を多数展示し、前回の内容との変化をつくり、大人から子供まで楽しめる展覧会と

なりました。

③ 浦佐毘沙門堂楼門天井画修復記念 板谷桂舟天井画展

■会期：4月22日（土）～5月28日（日）

（開館日数33日、入館者数2,669人）

浦佐普光寺楼門の天井画の修復完了を記念して、主催：毘沙門堂楼門天井画修復記念事業実行委員会、共催：南魚沼市教育委員会・普光寺・池田記念美術館として開催。修復が終わった天井画と板絵額を楼門に戻す前に美術館で公開。今後数百年、間近で見ることができない貴重な文化財を鑑賞できとてもよかったと大好評でした。

④ 日本版画協会《八色の森》巡回展

■会期：6月3日（土）～7月9日（日）

（開館日数32日、入館者数978人）

日本版画協会は1931年発足の日本を代表する版画家団体で、毎年版画展・巡回展を開催しています。出品作家を講師に版画ワークショップを実施し、小学生から高校生までが参加しました。ギャラリートークでは作家も多数来場し、技法や作品のテーマについて説明しました。また合同展示として、第22回全国高等学校版画選手権大会（はなが甲子園）受賞作品も展示しました。

⑤ 第24回 八海山夢展

■会期：7月15日（土）～8月28日（月）

（開館日数39日、入館者数2,321人）

主催は八海山夢展実行委員会。魚沼の美術愛好家を中心に、地元の美術振興を目的に創設され、今回で24回目となりました。絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門で募集、103名が出展しました。絵画部門の解説会、陶芸部門の陶芸教室、写真部門の撮影会、書道部門のワークショップなど多彩なイベントも企画し、地元の美術愛好家との交流を図りました。

⑥ [同時開催] 第6回 八海山ジュニア展

■会期：7月15日（土）～8月28日（月）

（開館日数39日、入館者数2,321人）

「八海山夢展」の期間に合わせて開催。令和4年度新潟県ジュニア美術展覧会に入賞した南魚沼市と魚沼市の児童生徒の作品を展示しました。

⑦ 第7回 八色の森の美術展+八色の森の子ども絵画展2023

■会期：9月2日（土）～10月22日（日）

（開館日数44日、入館者数1,559人）

「価値観と分断をしなやかに超えて」をテーマに、全国各地から現代美術の世界で活躍する作家34人が出品。地元の子どもの作品と一緒に共同展示しました。展示のほか谷川渥氏による基調講演、南雄介氏による文化講座、哲学対話教室や作品解説会などの多彩な文化イベン

トを開催。哲学対話教室には園児、児童、高校生から大人まで多数の参加者がありました。

⑧ 第76回 示現会展—巡回新潟展並びに新潟県支部展—

■会期：10月28日（土）～11月5日（日）

（開館日数9日、入館者数701人）

絵画団体・示現会の巡回展。東京で開催された第76回示現会展の会員・会友を中心とした全国巡回作品30点と、新潟県支部会員の作品、合わせて61点を展示しました。

⑨ 池田記念美術館収蔵品展

■会期：11月11日（土）～12月10日（日）

（開館日数27日、入館者数448人）

当館が所蔵している池田恒雄コレクションのうち、川端康成、幸田露伴、島崎藤村、坪内逍遙、永井荷風、吉川英治ら近代日本を代表する文学者の書や書簡を展示しました。

⑩ 第68回 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月6日（土）～1月16日（火）

（開館日数10日、入館者数2,399人）

南魚沼市と湯沢町の子どもたちの作品約400点を展示しました。入館料は無料とし、会期中に雪見展と一箱古本市を開催したこともあり、児童生徒の家族のほか、若年層が多数来館してくれました。

⑪ 魚沼ベストショット展 Part13

■会期：1月20日（土）～3月3日（日）

（開館日数38日、入館者数1,454人）

魚沼の自然、人間など多彩な魅力を表現する写真展。毎年開催し、今回で13回目となりました。魚沼はもとより新潟県内外から47名の写真家が出品。会期中は、作品解説会を2回実施したほか、杉原厚吉教授の講演会「錯視の世界から見た写真論」を開催しました。

⑫ 【冬季特別展示】第7回 錯覚展—杉原教授の不思議な世界—

■会期：1月20日（土）～3月26日（火）

（開館日数53日、入館者数1,696人）

錯視研究の世界的権威、明治大学研究特別教授で東大名誉教授の杉原厚吉先生が制作した錯視作品を展示。二科展彫刻部門に2年連続で入選した作品のほか、新作を多数紹介しました。3月10日に予定していた「雪の錯覚すべり台」の公開は、少雪による雪不足のため残念ながら中止となりました。

⑬ 池田記念美術館収蔵品展

■会期：3月9日（土）～3月26日（火）

（開館日数15日、入館者数242人）

当館で所蔵している女性作家ラグーザ・玉の作品のほか、相撲に魅せられて相撲部屋の稽古や地方巡業を追った米国人の女性作家、リン・スターム・レヴィの作品を展示。1970年代に活躍した横綱輪島や若乃花など、往年の力士を描いたスケッチ画を多数紹介しました。

2) スポーツ関係部門

南魚沼市内で合宿中の早稲田大学野球部の来館に合わせて、当館が収蔵する早稲田大学野球部資料を「スポーツ文化展示室」で紹介しました。また、大谷翔平のサイン入りボールも展示しました。

4、スポーツ協賛事業

地域との関わりを重視し、主催、協賛、実行委員会など積極的に参加し、スポーツ交流を促進しました。

① ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2023年5月20日（土）～21日（日）

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、薬師運動広場

② 南魚沼グルメマラソン

日時：2023年5月28日（日）

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ さわやかジョギング大会

日時：2023年6月4日（日）

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

会場：八色の森公園周辺特設コース

④ 八色の森健康ウォーキング

日時：2023年9月23日（土祝）

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

⑤ 水無溪谷リバーウォーク

日時：2023年10月22日（日）

主催：水無溪谷リバーウォーク実行委員会

会場：八海山麓サイクリングターミナル周辺特設コース

⑥ 八色の森公園子ども雪まつり

日時：2024年2月25日（日）

主催：浦佐こども雪まつり実行委員会

会場：八色の森公園特設会場

⑦ 八海山麓ホワイトカーニバル

日時：2024年3月10日（日）

主催：八海山麓ホワイトカーニバル実行委員会

会場：八海山麓スキー場

※スノーイベントは中止となり、雪の錯覚すべり台の公開は次年度へ延期しました。

5、収益事業

1) 売店収入

企画展、ワークショップなどと連動し、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどをショップに飾り、売上アップを図りました。委託販売のグッズも取り揃え、ショップを充実させました。また、令和5年度の「魚沼産コシヒカリ・ベーマガ米」の新米売上について、これまでの「委託販売手数料収入」から「売店収入」に変更しました。

2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を鑑賞しながら飲む一杯のコーヒーのおいしさをアピールして売上をのばしてきました。最近では、リピーターに「イケビの珈琲はほんとうにおいしい」と声をかけられます。2011年からジェラートを扱い、2013年からは抹茶、2016年には冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を呼び起こしてきました。2018年春からはコーヒーチケットを販売し企画展と連動して販売するなど、引き続き売上増を図ります。

3) スポーツカードショー収入

今年度は開催を中止しました。

4) 委託販売手数料収入

これまで「委託販売手数料収入」として計上していた「魚沼産コシヒカリ・ベーマガ米」の販売収入を、令和5年度の新米から「売店収入」に変更しました。今期の計上額（2,364円）は4月～9月に販売した平成4年度米の収入となります。

5) 施設使用料収入

「新潟日報カルチャースクール」「スポーツ&ライフ南魚沼スポーツ・文化教室」「雪見展」

「一箱古本市」など、これまで「入館料」として計上していたものを、今年度から新たに「施設使用料」として計上し、収入の厳密化を図りました。

6、その他

① 一箱古本市@池田記念美術館

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。出店は20～30店。個性的な古本を楽しめると好評で、春と冬に開催しました

■会期：4月23日(日)～5月14日(日) 無人販売

■会期：2024年1月6日(土)～7日(日) 対面販売

■会期：2024年1月8日(月祝)～14日(日) 無人販売

※1月は「南魚沼郡市児童生徒美術展」の会期中、雪見展と同時期に開催しました。

② 雪見展

真冬のクラフトマーケット。雑貨やパンなどのショップ、グルメの屋台が並び、「南魚沼郡市児童生徒美術展」鑑賞と共に、家族で楽しめるイベントとして開催してきました。フリーマーケットが少ない冬に開催することから、県外など近隣地域以外からの出店も増えています。今年度は春にも開催しました。

■会期：4月23日(日)～5月14日(日) 無人販売

■会期：2024年1月6日(土)～7日(日) 対面販売

■会期：2024年1月8日(月祝)～14日(日) 無人販売

③ スポーツ&ライフ南魚沼スポーツ・文化教室

ベースボール・マガジン社新潟支社と連携して、地元在住の書家、スポーツインストラクターを迎え、美文字、エアロヨガの教室を開講しました。

④ 〈施設提供〉新潟日報カルチャースクール

毎月2回、休館日の水曜日に施設提供し、仏像彫刻、太極拳、ハーモニカの教室を開講しました。